社会福祉法人　刀圭会　　帯広市

【他法人連携『白樺支縁くらぶ内【とうけいかいかふぇクラブ】』】

⋆取組みについて

社会福祉法人真宗協会と㈱ダイイチが実施する共同地域貢献事業に参画し、法人が持つ医療介護福祉に関する知識や技術を、広く地域住民に提供し、地域福祉の向上に努める。

⋆取組みを行って

社会福祉法人真宗協会より、地域の社会福祉法人として何か連携して行えないか、との打診がきっかけ。今年度始まったばかりだが、出張出前講座のメニューをはじめ、医療法人の専門職による『骨粗しょう症について』、『介護保険入門』など様々なメニューを今後も企画していく。法人を離れて外部で発信するという事は今まで少なかったので、良いきっかけとなっている。

【他法人連携『北海道の社会福祉法人における公益活動の取組　３事業参画』】

⋆取組みについて

権利擁護、生活困窮、災害時協働、について　それぞれ事業参画。

⋆取組みを行って

当法人理事長が、上記３事業の検討委員会に入っていたのがきっかけ。今のところ特別大きな展開は無く、参画を表明しているだけではあるが、今後とも研修会や検討会に積極的に参加し、地域の中核として他の法人を巻き込んでいきたい。

社会福祉法人　伊達市社会福祉協議会　伊達市

【市民交流の場づくり事業助成金交付事業】

★取組みについて
市民の「仲間づくり」、「居場所づくり」、「生きがいづくり」等交流の場の提供を通してお互いに支え合い助け合う地域づくりを実践し、市民福祉の向上に寄与している団体に助成金を交付し、活動の安定と継続的な事業運営を促すことを目的に実施。
対象者はサロン活動実践者、地域食堂運営者、障がい者や高齢者等の交流の場を提供している方など。
助成期間は最長３カ年。助成金額は１団体当たり 30 万円を上限（予算総額は毎年度の予算で定める額を限度とする）。

【ひとり親世帯新入学児童へのお祝い金贈呈事業】

★取組みについて
市内のひとり親世帯当事者団体と協働し、新入学児童のいるひとり親世帯へ入学お祝い品（学用品等）を贈呈する取り組み。
市社協の原資は、市内新聞社からの指定寄付金。

社会福祉法人　札幌慈啓会　　札幌市

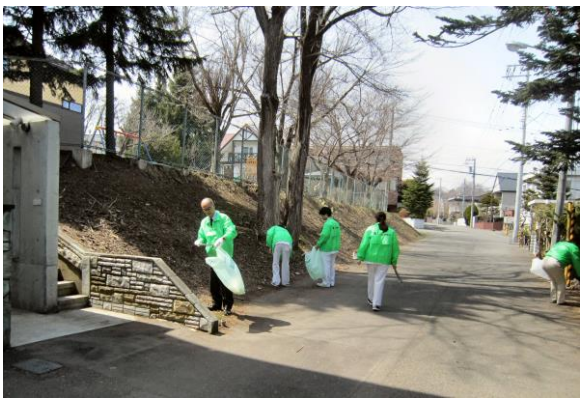
【慈啓会施設に隣接する道路等の清掃活動】

★取組みについて

社会福祉法人における地域への公益的な取り組みの一貫として、地域住民へ慈啓会のイメージアップもかねて取組むようになりました。主な内容は、職員による旭ヶ丘地区施設に接する道路及び隣接町内の歩道清掃の実施です。清掃は冬期間を除き月１回程度対応しています。

★取組みを行って

平成２８年５月～冬期間を除き、職員による清掃活動を開始しました。
定期的な開催を継続することで町内会からも活動が認められるようにしていきたいと思っています。



【福祉避難場所】

★取組みについて

災害時に介助等が必要な方で、一般の避難所での対応が難しい方に対して施設を福祉避難所として開放することになっています。

★取組みを行って

老人福祉施設が属する協議団体と行政が災害時等の福祉避難所としての指定に関する協定を提携したことにより、災害時等に福祉避難施設として受け入れ可能と届け出ています。

【定期演奏会】

★取組みについて
毎月行っているプロの演奏者による定期演奏会に、入居者や利用者だけでなく家族や近隣の方々にも無料開放しています。

★取組みを行って
施設には色々な慰問の方々が見えますが、慰問ではなく入居者や利用者に本物の音楽を聴いてもらいたいと約１３年前からクラシック系のプロの演奏者にお願いし演奏会を行なっています。

【札幌慈啓会共生（ともいき）助成事業】

★取組みについて
北海道内に在住する高齢者領域における保健・医療・福祉分野に勤務する人を対象にテーマに添った研究を募集し、該当している場合、１件５０万円/一年を限度に助成しています。年度ごとの申請と助成になりますが、年度末には研究をまとめた報告書を作成し提出いただいております。申請は法人外の人も対象となりますが、これは北海道内の同業同種の専門職仲間を支援することでこの業界における質の向上に繋げることを目指しているからです。

★取組みを行って
平成２３年度より事業として取組んでいます。
北海道老年医学研究会が解散したあと、その資金を元手に当法人で運用を引き受けております。
実績としては、札幌医大を中心とした医師からの申請・助成がその中心で、福祉職からの申請は少ないのが現状です。
助成終了後、当法人で開催する福祉・病院学会で成果を発表して頂くようにしています。

【他社会福祉法人との連携事業による健康講話会の開催】

⋆取組みについて

これは隣接する社会福祉法人同士が連携し、地域住民を対象とした健康講話会を開催する取り組みです。現在は幌西地区にある社会福祉法人と合同で年１回秋に立地地区を対象に実施しております。昨年は医師による講話と参加者による質問タイムの構成で実施しました。参加者のふとした疑問に丁寧に答えてくれる講師（医師）だったこともあり好評のうちに終了することができました。

住み慣れた地域で高齢者になっても、自分の健康状態と相談しながら、自分なりの生活を継続していくことが出来るようになるための手助けとして実施した講話会でした。

⋆取組みを行って

第１回目の開催は平成３０年１０月でしたが、現在のところ年１回程度合同開催を継続していきたいと考えております。また、開催場所についても、地域住民が集まりやすい立地である連携法人施設のカフェスペースを使って今後も開催を継続していきたいと思います。内容についてはその都度連携法人とも相談し、検討・選択していきたいと思います。

周知方法はホームページ、関係町内会への回覧、法人ボランテイアへの呼びかけでしたが、今後も同様の方法で行ってきたいと考えています。

【血圧測定サービス】

⋆取組みについて

藻岩山の日にちなんで、登山客や地域の方を対象に無料の血圧測定を行っております。

⋆取組みを行って

２０１０年に慈啓会病院看護師の発案で、看護の心、助け合いの心が育むきっかけとなる活動として、地域の方に向けて始めております。

社会福祉法人　鷹栖共生会　　鷹栖町

【移動販売事業】

⚹取組みについて

高齢化が進む中山間地域の無店舗エリアを中心に巡回し、必要とされる商品を提供。
日常生活を行う上でのちょっとした困りごとの相談に乗っていく。
また、これらの活動を通じ地域の見守り支援に繋げていく。

⚹取組みを行って

鷹栖町内に地産地消の店チコリを展開し配達も行っているが、高齢化が進む中山間地域の無店舗エリアの方々が直接商品を見て買い物をしたい、日常生活の中でのちょっとした困りごとを頼めるところがないという声があり事業を実施した。まだまだ手探り状態で不十分な中ですが、地域の方々が買い物に対してどんな困りごとや要望をもっているかを、移動販売や宅配、個別商品の取り寄せなどを通して確認しながら、今後の事業展開を図っていきます。

社会福祉法人　苫小牧慈光会　苫小牧市

【独居高齢者の鍵の預かり事業】

⚹取組みについて

社会福祉協議会の事業として平成３０年度から協定を締結し、在宅独居高齢者の鍵の預かり事業を開始する。地域で一人暮らしをされている高齢者を対象に、ご家族など遠方などの理由から、安否確認が必要な時に、家の鍵がなく対応に苦慮していたため、地域支援事業の一環として新規事業で社会福祉協議会が取り組みを開始する。

⚹取組みを行って

苫小牧市内は介護福祉関係の施設の充足率が高く多く点在しているため、地域ごとに拠点施設となる福祉施設としての役割を期待され、事業実施先の社会福祉協議会と協議し、法人として事業の協定書を締結する。その対象となる高齢者がいた場合に、申請先、対象者の決定は社会福祉協議会が窓口となり。高齢者または、家族が契約を取り交わし自宅の鍵を預かる。社会福祉協議会から依頼があった時に、高齢者宅の鍵を預かり、事前に登録している人が施設に鍵を受け取りに来た時に渡す事業内容となる。独居高齢者や身寄りのいない高齢者が安心して住み慣れた家での生活支援に役立つよう社会福祉協議会と協力体制を組んでいる。

社会福祉法人　更別村社会福祉協議会　更別村

【H.E.A.R.T（ハート）事業】

⋆取組みについて

H.E.A.R.T（ハート）事業は、Helping（助け合う）Everyone（皆）Arrive（なるように）at self-Reliance（自立）Together（一緒に）の略です。
様々な事情により現在お仕事をされていない方に、生活のリズムを整えていただけるよう、簡単な事務仕事や清掃作業などを提供・調整します。（報酬はありません）
活動内容や時間は、ご本人の意向を伺いながら一緒に考えます。例えば生活改善や外出の機会、またご希望であれば就労のためのステップとしてご利用いただけます。

⋆取組みを行って

地域の中にはこの事業が対象となる方、お困りの方がいると思われ、事業を作り周知を続けてきましたが、相談自体滅多になく、利用延件数としても非常に少ない状況です。必要な支援を広げていくためのアウトリーチが課題です。
しかし過去には相談を受けて事業を利用し、その後就労につながった例もありました。
今後も一つの支援の入り口、受け皿として取り組みを続けていきたいと思います。

社会福祉法人　真宗協会　帯広市

【障害者施設合同近隣市街地清掃活動】

★取組みについて

法人創立７０周年を記念して、当法人障害者支援施設が所在する帯広市大正町市街地のゴミ拾いを実施しました。

★取組みを行って

７０周年記念事業の一環として行った事から、継続事業としての予定はありませんが、これを機に一部施設においては、単独による清掃活動の取組みを実施しており、~~ます、~~今後の波及効果が期待されます。

【夏期間における近隣地域草刈りボランティア】

★取組みについて

当法人障害者支援施設が所在する帯広市大正町市街地の近隣町内会の独居高齢者を主な対象として、家屋周辺の雑草等の草刈りを依頼に応じて環境整備ボランティアの一環として実施しました。

★取組みを行って

社会福祉法人に求められている地域貢献においては、ここ数年法人としても取り組める内容の精査並びに、その財源確保等を協議していますが、各施設単位においても同様の協議・検討を続けてきました。

過去には、感染症予防として消毒に利用できる次亜塩素酸水生成機を所有している事を活用し、冬期間等の感染症流行期に希望者に対して無料配布を呼び掛けましたが、広報活動が十分に行き渡らなかった点もあり、希望者数０名という結果に終わりました。

そのような経緯を踏まえ、ニーズの把握且つ所有する設備、機器類と確保可能なマンパワー等を精査し草刈りボランティアを始めました。

初年度である平成３０年度は、実施期間７月～１０月において、依頼件数６件となっています。

社会福祉法人　北海道博愛舎　夕張市

【日本赤十字社への献血活動協力】

⋆取組みについて

命が救える身近なボランティアの一環として、当施設で取り組みました。

病気やけがの治療のために、日本国内では毎日約 3,000 人もの患者が輸血を受けています。

少子高齢化の影響などによって、将来、延べ献血者約 85 万人分の血液が不足するおそれがあります。

少子化による影響以外にも献血への関心の薄れといった若者の献血離れなどが挙げられます。

若年世代の方にも理解をもっていただき、協力したいという意識をもつことを目的として取り組んでいます。

⋆取組みを行って

命が救える身近なボランティアの一環として、当施設で取り組みました。

今では、職員一人ひとりが意識をもち、率先して献血に協力しています。

社会福祉法人　豊浦町社会福祉協議会　豊浦町

【外出支援サービス事業】

⋆取組みについて

この事業は、送迎を通じて外出の手段を確保することにより、生活の不安及び孤立感の緩和・解消を図り、もって利用者の在宅生活の維持に資することを目的に取り組んでいます。

⋆取組みを行って

本事業に取り組むきっかけは、豊浦町（行政）が実施している「移送サービス事業」（通院に伴う送迎）の対象者の中に移送サービス事業の対象区域外の通院に際して送迎のニーズがあったことです。移送サービスの対象区域内に専門の診療科（脳神経外科、心臓外科等）のある病院がないことから、これらの診療科を受診する場合で身体的•精神的に公共交通機関の利用が困難な方を対象に町社会福祉協議会が送迎を行うことで、既存の移送サービス事業を補完し町民の地域生活への不安の解消につながると考えました。

本事業を行うにあたり、ニーズをより正確に把握し、また、社協の送迎体制を整えるために１年間試験的にモデル事業として実施し、課題を整理して要綱を整備しました。まずは、利用対象者を明確にするため本事業を利用する場合は、町保健センターや町包括支援センター等から相談を受けた方という条件を設けました。また、送迎体制の確保の点から利用回数についても対象者１名につき原則月２回までとしています。そして新たに見えてきた課題への対応として、通院に困難を感じている人は買い物にも不便を感じており、通院の経路における食料品その他の日常生活用品の買い物の利用もできるようにしたことで、効率的に外出支援を行うことができるようにしています。利用料金については、できるだけ低額な料金でサービスを提供するため、使用する車両のガソリン代の実費を利用者に負担していただくかたちで実施しています。

社会福祉法人　北見市社会福祉協議会　北見市

【地域住民との連携による単身高齢者生活支援（外窓拭き等）】

＊取組みについて

この取組は、北見市が要支援世帯を対象にアンケート調査を実施し、その困りごとのニーズとして意見の多かった窓拭きをボランティア活動として行っています。取組みやすい点もあり、ボランティアの発掘事業として実施しています。

常呂自治区では「まごの手届け隊」という名称で、窓拭きができない一人暮らし高齢者を対象として学生ボランティアを中心に若い世代の「孫世代」が、ちょっとした手が届かないところを手助けする「まごの手」のように窓拭きをお手伝いするという意味合いで、平成１８年度から実施を始め、ボランティアの発掘に繋げています。

北見自治区では、常呂自治区の活動を参考にしながら、平成２８年度から一人暮らし高齢者を対象とし対象地区を定め、その地域に住む方々にボランティア参加を呼び掛けることで、地域の助け合いの形を目指す「思いやり」を届ける活動として「思いやり届け隊」をスタートさせています。

＊取組みを行って

平成１８年度に常呂自治区で取組みを始め、地域住民、高校生等を巻き込んだ新たなボランティア活動として実施し、平成２８年度から北見自治区北部包括エリアで住民による新たな支え合い活動とボランティア活動のコラボとしての取組みです。

平成２９年度は西部地区包括エリア、平成３０年度からは中央地区包括エリアへとエリアを少しずつ拡大させ、窓拭きだけではなく事業形態を活かした中で、除雪活動などへ展開させています。

市内の中学校や高校へボランティア参加の依頼を行い、学生の参加が増えることで地域の関心が高まり、町内会の役員の協力が得られるなど、事業への関心が高まってきています。

また、ボランティアの参加形態を「窓拭き」、「調理」、「食材提供」の３つの形態で参加できる新たな取組みとして行い、協力方法の選択肢を増やすことで、より多くの方が関わりを持ち、支えあいに参加できる事業となっています。

【結婚相談所の運営】

★取組みについて

結婚相談所は、北見市民の求めに応じ、結婚について相談及び斡旋し、その幸福で明るく堅実な家庭生活の確立に寄与するために、昭和４５年４月から社協が設置し取り組んでいます。

★取組みを行って

昭和４５年度に福祉的結婚相談所として開設。これまで６３１組が成婚。ボランティアが相談員として活動している。

【地域における権利擁護事業の促進（権利擁護ネットワーク懇話会）】

★取組みについて

少子高齢化の一層の進展に伴い、後見ニーズが急速に高まることが見込まれるなか、国においては平成２８年５月に成年後見制度利用促進法が施行され、利用者が安心して手軽に利用できることを実感できる制度・運用の改善、権利擁護支援のための地域連携ネットワークづくりに向け、今後、市町村基本計画の策定を通して権利擁護支援のためのネットワーク体制の構築やコーディネートの役割を担う中核機関の整備等に取り組むこととされました。
そのような経過を踏まえて、地域における権利擁護の取り組みを一層効果的に推進するため、成年後見制度に関わる関係機関、民間団体等の連携の強化や、情報共有を円滑なものとするために「権利擁護支援ネットワーク懇話会」と題して事業を実施しました。

★取組みを行って

（成果）

成年後見制度の運用や推進に関わる関係機関職員（家庭裁判所、弁護士会、司法書士会、社会福祉士会、地域包括支援センター連絡協議会、ケアマネージャー連絡協議会、障がい者相談支援センター、医療機関、行政、社会福祉協議会等）の参加のもと平成３０年１１月、平成３１年１月に開催しました。
懇話会をとおして、担当者間の「顔がわかる」「人となりがわかる」「それぞれの役割がわかる」といったネットワーク醸成への重要な要素が推進されていると感じます。

社会福祉法人　黒松内つくし園　　黒松内町

【奨学金支給事業】

＊取組みについて

この事業は、能力があるにもかかわらず、母子・父子家庭、施設等で経済的な理由により、就学困難な者に対して無償で学費の一部を支給し、心身ともに健全な人材の育成に資することを目的として、昭和５２年度に創設されました。黒松内町に住む母子・父子家庭と児童施設等で暮らす高校生を対象に、１年間に５万円までを奨学資金として無償で支給しています。平成２９年度には、町内の高校だけでなく、福祉専門学校等で学ぶ外国人留学生にも月５万円・年間６０万円を上限に支給することとして、福祉人材への経済的支援も行っています。

今年で４２年目となり、これまでに延べ９３０名の高校生と２名のベトナム人留学生に、総額で２，５７０万円を支給しました。

＊取組みを行って

昭和５２年に、黒松内町の有志と当法人の故 廣瀬清蔵元理事長が、寄せられた寄附２６６万円で制度を始めました。法人が事務局を担い、中学校長、民生児童委員、社協事務局長、町福祉課長で構成した奨学金制度委員会を設置。毎年度、法人に申請した学生を対象に、年１回学資を無償で贈呈。奨学資金授与式では、毎年受給者一人ひとりに手渡して活躍を応援しています。

奨学金制度は、社会貢献事業として高校生、短大・専門学校生に通う外国人留学生への経済的支援に加え、福祉専門学校の奨学金制度と連携して、福祉人材の養成にも取り組んでいます。

社会福祉法人　新生会　　旭川市

【独居老人宅除雪】

☆取組みについて
春光台地区で暮らしている高齢者の方のお宅に出掛け、除雪を行う取組みです。地区社協と協力して取り組んでいます。

【陶芸教室】

☆取組みについて
施設で行っている陶芸活動を地域の人に体験してもらえるよう、学校等の休みにあわせて行う取り組みです。地域の子供が参加し作品作りをしてもらいました。

社会福祉法人　新生会　　小平町

【小平町の協力のもと特産品の開発】

★取組みについて

小平町での黒毛和牛導入に伴い、牛肉を使った商品開発を依頼され取組を開始

★取組みを行って

以前、小平町特産品加工開発施設（現在廃止）の委託を受けた際に、小平町で導入した黒毛和牛の肉を地元の特産品として有効利用するために試作をはじめ、現在は「ほっぷ　すてっぷ」の授産作業として位置づき、黒毛和牛のハンバーグ・カレー・シチュー等として商品販売している。

社会福祉法人　希望の里　　苫小牧市

【無料送迎サービス】

⋆取組みについて

障害者支援施設において、生活介護、短期入所利用者のうち、送迎を希望される方への無料送迎の実施

⋆取組みを行って

施設立地地域は公共の交通機関が充実しておらず、施設の利用は自家用車に限定されていた為、自家用車を所有されていない家庭でも利用できるよう実施した。

【災害時における取組み】

⋆取組みについて

災害時における指定緊急避難場所としての使用に関して、町と協定を締結している。

社会福祉法人　緑星の里　　苫小牧市

【社会貢献推進委員会】

☆取組みについて

1.法人独自事業

1)こども交通安全サポーター事業（植苗小中学校登校時間）月１回
出退勤道路の為、生徒の安全、挨拶の励行と職員の安全運転における啓蒙活動

2)デイサービスの無料体験事業（H24.8～現在）随時
介護保険適用外の包括や市福祉課からの依頼や介護保険対象者における無料体験

3)緊急ホルダー配布事業（高齢者行方不明防止事業）（H27.2～現在）
高齢者が行方不明になった際の氏名連絡先をキーホルダーにて登録して、早期の発見に繋げる

4)学齢障害児を対象としたリハビリ支援（サポートセンター）（H28.12～）
学齢障害児を対象としたリハビリの利用が手薄なため、PT 等における療育指導を実施

5)学齢障害児利用のデイの職員、特学の教員等を対象とした研修会の実施
PT 等によるリハビリの方法等を理解し、身体的機能の発達支援

6)はつらつ教室（介護予防）の開催（沼ノ端地区）月２回（H29.4～）
19 名登録、送迎あり体操等予防教室
市におけるはつらつ教室が廃止になった為、利用継続を実施していく為

7)サポートセンター（障害者総合相談事業所）の地域無料開放事業（双葉町）
地域等の集会等の利用における地域への開放

8)高齢者総合相談事業
市内における高齢者及び家族の相談を受けるための相談室の開設

2.保護司会からの要請

1)刑務所出所者ボランティアの受入れ事業（H27 年度～）
保護観察者のボランティアを通じて社会参加における規範意識を高めていく

3.公的事業

1)利用者負担減免制度

平成 28 年度実績
（陽明園関係 5,489,111 円（入所 20 名内生保 3 名他 SS 延 16 名
内生保 7 名、デイ、訪問）東胆振 6,408,241 円、計 11,897,352 円）
低所得者への介護福祉サービスの利用

4.苫小牧市の事業委託
1）障害者総合相談事業（知的、精神、身体、児童他）
障害児者の相談受付拠点の設置
2）苫小牧市 SOS 認知症不明者協力事業（公用携帯 134 台登録）平成 29
年度 5 回の配信あり
高齢者の行方不明情報の配信を受けて、職員等による早期発見の協力
3）認知症カフェ陽明園（勇払地区）、ナイスデイやなぎ（やなぎ町地区）（H26.6～）
引きこもり及び介護保険適用外の方を含めたコミュニケーションの場
の提供

5.市社協の委託事業
1）独居高齢者における鍵預かり事業（陽明園）
独居高齢者の状況確認の依頼
2）配食サービスの実施（陽明園・永光）
高齢者を対象とした夕食の配食サービス

6.広報活動
1）法人ホームページにおける掲載

☆取組みを行って
社会福祉法改正における貢献事業の責務として委員会の設置
法人内に社会貢献推進委員会を設置し、企画運営を定期的に実施している

社会福祉法人　函館共働宿泊所　函館市

【函館市避難所】

☆取組みについて

非常災害の発生時において、函館市よりの指示を受けて避難所を開設し、地域住民を保護することを目的としています。

当施設は、平成 20 年３月に「函館市一時避難所（津波災害は対象外）」として登録をし、平成 25 年２月に「函館市津波避難計画」が正式決定されたことに伴い、函館市からの要請を受け、平成 25 年３月より「避難所」として登録しました。

さらに、平成 25 年６月に「災害対策基本法」の改正により「指定緊急避難所（原則 24 時間）」および「指定避難所（原則７日間）」に登録されることとなり、平成 27 年 11 月 26 日、函館市との協定を締結し、現在に至っています。

☆取組みを行って

平成 20 年４月に当施設が移転・新築した敷地については、以前から非常災害発生時の避難場所として函館市からの指定を受けておりました。そこで、当施設整備事業に併せ設置した「地域交流スペース」を避難住民の受入れ場所として活用することで、平素の地域交流（福祉）活動の拠点施設としてばかりではなく、非常災害発生時の地域防災の拠点施設としても大いに地域貢献が出来るものと考えました。

移転先の町会長からも「町内に２箇所ある避難所のうち、１箇所は極めて海抜の低い位置の町会館であるため、津波発生時にはもう１箇所の高台（当施設移転敷地）への避難を想定している地域事情がある。地域交流スペースが住民の身体・生命を守るための避難所としての役割を果たすことを強く希望する。」との要請を受け、函館市との協議の結果「一時避難所」として登録されることとなりました。

これまでの避難所開設実績は、平成 22 年２月 28 日「南米チリ大地震に伴う津波（避難勧告）」の際に住民１名・避難車両多数、平成 23 年３月 11 日「東日本大地震に伴う津波（避難指示）」の際には住民 13 名・避難車両多数、平成 28 年８月 22 日「台風９号の接近に伴う土砂災害の恐れ（避難準備情報）」の際には住民３名を保護しました。

３回の実績についてはいずれも函館市からの開設指示はなかったものの、住民からの強い要望や町会長からの要請に応え、人道的な見地から開設したものではありましたが、地域の住民との信頼関係が次第に築かれていることから、地域に対して少なからず貢献ができていると考えています。

社会福祉法人　室蘭言泉学園　　室蘭市

【むろげんボランティアの会】

★取組みについて

「むろげんボランティアの会」というボランティア組織を立ち上げました。その目的のひとつは、ボランティアの育成です。ボランティアの方々に、定期的に活動していただく中で、児童福祉施設や障がいを持つ方への理解を深めていただきたいと思っています。実際に子どもたち・利用者の方たちと関わっていただくだけでなく、学習会の開催、法人の研修会にも参加する等の機会を設けています。もうひとつの目的として入所児童・利用者の方たちに、より充実した余暇を過ごして頂くために土曜・日曜・祝日等の主に外出時の付添いや行事の付添い等で活躍していただいています。

★取組みを行って

休日には外出する機会が多く、利用者の方の中には外出時に付添いが必要な方が多くいらっしゃいます。ボランティアの方に来ていただくことで、利用者の方の付添いが充実します。初めは、障がいがある方々との経験がない自分がボランティアを出来るのだろうかと心配される方もいらっしゃいましたが、少しずつ慣れて子どもたちのことや利用者の方の障がいを理解したいと努力してくださっています。

【資源再活用事業】

★取組みについて

資源再活用事業は法人事業所で集めた、リングプルやペットボトルキャップ、使用済み切手などを活用して購入した物品などを地域の小学校などの団体へ寄附することを目的にした活動です。こちらの事業は立ち上げ段階ですので活動実績はございません。

社会福祉法人　室蘭福祉事業協会　室蘭市

【エンルムハイツ地域人材活用事業（介護パートナー事業）】

☆取組みについて

地域に住まわれている主婦やシニア世代を対象に、介護パートナー事業をセカンドライフややりがい・健康増進を目的として、補助事業終了後もエンルムハイツの独自事業として事業を継続して、２名の方を継続雇用しています。

雇用については、職員の配置定数外の週２日～5日の勤務とし、介護職員の補助（掃除、洗濯、ベッドメイキング等）で、介護の仕事からお互いに支えあう地域づくりと就労の機会を提供しています。

☆取組みを行って

北海道の補助事業「地域人材活用事業」を平成29年に実施して８名の事業参加をいただき、平成29年10月～平成30年１月に実施して終了しましたが、その後についてもエンルムハイツの独自の事業として２名を継続雇用して、地域の雇用と地域の支え合いに参加しています。

雇用に関わる経費負担については、施設で全額自己負担しています。（今後も継続雇用予定）

社会福祉法人　北光福祉会　　遠軽町

【アート活動支援室「ぴかり」】

☆取組みについて
アート活動支援室「ぴかり」の活動
利用者が描いたアート作品を作品展等に出展して社会に参加し、社会と繋がる機会を提供する取り組みです。
（活動例）
・地域の銀行やサロン等にアート作品を定期的に展示し、一般の方々に楽しんでもらう。
・公募展には道内外に参加
・作家として美術館等で紹介された人もいる。

☆取組みを行って
アート作品やグッズについてはパンフレットや広報誌、ホームページやＳＮＳを通して情報を発信。利用者が楽しんでいることは勿論ですが、アート作品やグッズのファンが増えてきている。

【ミュージックサークル「ハモロ」】

☆取組みについて
ミュージックサークル「ハモロ」の活動
音楽が好きな利用者を中心に音楽活動のサークルを結成。各地のイベント等に参加して地域の方達に音楽を楽しんでもらう取り組みです。
（活動例）
・トーンチャイム等の演奏で地域のイベントや演芸会等に出演。
・地域の高等学校との交流イベントに参加。
・他法人のイベントへの出演や、町の社会福祉協議会事業との連携。

☆取組みを行って
施設の行事で行ったビデオ紹介を見て出演の打診があったり、参加した方から直接園に出演オファーがあったり、活動の輪が広がりつつある。